ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E142N008	意味論研究 (Semantics Study)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択	2	3	教育学部 ≪令和２年度以降入学生用≫	後期	月3	日本語	英語	単独

担当教員	氏名　橋本　美喜男 E-mail　mikioha@oita-u.ac.jp　内線　7578
授業の概要	意味論の観点から英語の文法を学生は深く理解する。また，意味論に関する基礎文献を英語で読む。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	小学校，中学校または高校で英語を教えるのに必要な知識を学生は身につける。	○	○					
目標2	英語学の基礎文献を英語で読む力をつける。	○	○					
目標3								
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
	各DPへの関連度（計10）	6	4					

授業の内容	
1	英語の法と時制と相について
2	英語の直説法
3	英語の文法的相　単純相と進行相
4	英語の文法的相　完了相と完了進行相
5	英語の語彙的相　達成と活動
6	英語の語彙的相　到達と状態
7	日本語の動詞の分類について
8	未来の出来事を表す表現について
9	未来の出来事を表すさまざまな表現
10	肯定文と否定文，平叙文と疑問文
11	法助動詞の特徴について
12	法助動詞 canとmayの基本的用法
13	法助動詞 mustとwillの基本的用法
14	法助動詞 shallとouldとmightとshouldの基本的用法
15	仮定法と全体のまとめ

アクティブラーニング					
	A:知識の定着・確認	○	関連する課題を考える時間を設ける。	その他の工夫	英文の文献を読ませる。
	B:意見の表現・交換	○			
	C:応用志向				
	D:知識の活用・創造				

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	重要なキーワードを事前に調べてもらう。 英語の発表に必要な英語表現を調べてもらう。(20h)
	事後学修	授業での発表内容を英文にまとめてもらう。(25h)
	想定時間合計	45

教科書	Moodleを通してプリント等を配布する。
参考書	授業中に紹介する。

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	毎回の授業中の課題	40%	○	○								
	最終課題	60%	○	○								

注意事項	
備考	Moodleで出席を取り，課題をしてもらうので，パソコンまたはスマホが必要です。
リンク	
URL	